

弘前大学男女共同参画推進室

さんかくつうしん

News Letter vol.7

つがルネッサンス!

新学長ごあいさつ・・・・・・・・・・1
 研究支援員制度開始・・・・・・・・・・1
 安藤哲也さんセミナーのお知らせ・・1
 イベント報告・・・・・・・・・・2
 お知らせ・・・・・・・・・・2
 第4回女性研究者インタビュー・・3
 情報共有サーバシステム・・・・・・・・4
 第4回理工学部女子会・・・・・・・・4

新学長ごあいさつ



国立大学法人弘前大学
 学長 佐藤 敬

大学における男女共同参画の推進は、性別、年齢、国籍等を問わず、さまざまな立場の人々に、学びやすく働きやすい環境を整備し、それにより教育・研究の活力を高め、大学が活性化するための基盤を創るものと考えています。

本学は、平成19年に男女共同参画推進準備室を開設、平成21年8月に「弘前大学男女共同参画宣言」、同年10月には男女共同参画推進室を設置し、平成22年からは女性研究者研究活動支援事業「つがルネッサンス!地域でつなぐ女性人才」が採択され、本学の男女共同参画は本格化しました。

本学は、平成20年4月から、24時間体制の「ひろだい保育園」を開設しています。「ひろだい保育園」の利用は、本学に勤務する教職員を保護者とする就学前の乳幼児が対象ですが、本学の学生や大学院生も利用可能です。受入定員は、常時満たされており、ワーク・ライフ・バランスの実現のためには育

児支援が必要であることがわかります。また、本学の方針決定の場でも、女性の登用を進めており、現在は、経営協議会に1名、教育研究評議会に2名の女性が就任しています。

しかし、本学の女性研究者の割合は、国立大学法人の平均値より高い値を示していますが、大学の責務である次世代育成を考慮すると、今後も女性研究者を増やす努力が必要と考えます。

本学のモットーである『世界に発信し、地域と共に創造する弘前大学』の実現には、男女共同参画の推進が不可欠です。本学が誰もが学びやすく働きやすい環境になるよう、これからも男女共同参画を積極的に推進したいと考えます。

男女共同参画推進宣言(学長宣言)

本学では、男女共同参画を推進するために、平成21年8月に男女共同参画宣言を行いました。この度、学長交代に伴い、男女共同参画をより一層推進するために、佐藤学長が、あらためて弘前大学男女共同参画推進宣言(学長宣言)を行いました。

※全文はHPをご覧ください。

2012 Hirosaki University Research Support System

いよいよ始まりました! 研究支援員制度

平成24年8月30日の読売新聞(教育ルネッサンス「弘前大の実力~リケジョ編~」)で、研究支援員制度を活用されている農学生命科学部牛田千里准教授が紹介されました。

本制度を活用する前の牛田先生の生活環境や、研究を手助けする研究支援員の子学生の感想等掲載されています。



また、日本の女性研究者数や女性研究者が根付かない理由が挙げられ、研究支援員制度の重要性が強調されています。

記事の最後は、杉山副室長の「家事と仕事を両立する女性研究者は、支援員の子学生にとってのお手本。将来的に理系女性研究者の裾野が広がることを期待している」との言葉で締めくくられています。

ところで、女性研究者割合の世界1位と2位の国を知っていますか? 1位はラトビア(52.4%)、2位はリトアニア(50.4%)、ちなみに日本は13.6%です。

Seminar

Information

ファザーリングジャパン
 安藤哲也さんのセミナー 開催します!
 「一度の人生 120%楽しもう!」



~仕事もプライベートも大満足!の
 デキル大人になる~

日時: 2012年10月24日(水)
 14:20~15:50

場所: 生協1階食堂

たった一度っきりの人生、勉強も就職もケツコンも何もかも、できることならメいっばい自分らしく楽しんで生きていきたいと思いませんか?

ファザーリングジャパン副理事・タイガーマスク基金代表理事の「ロックなおじさん」安藤哲也さんが、その生きざまを語りつつ、人生を充実させ幸せになるための考え方や行動のヒントを話します。

あなたにとって「人生で大切なこと」とは? あなたは人生をどう生きていきますか? さあ、その答えを一緒に探してみましょ。

情報共有サーバシステムのお知らせ
 詳しくは、4ページをご覧ください。

Seminar

Report

第5回セミナー
「科学の楽しさ伝えたい」



講師の有賀早苗氏

6月12日、女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」の一環として、北海道大学副理事、人材育成本部女性研究者支援室室長で大学院農学研究院教授の有賀早苗氏を講師に迎え、弘前大学の理科教師をを目指す学生ら約40人を対象にセミナー

を開催しました。有賀氏は、北海道大学理系応援キャラバン隊の活動を写真などでわかりやすく紹介するとともに、取り組みを持続することの重要性や今後に向けての課題について話をしました。

それに先立ち、有賀氏は、弘前大学教育研究評議会評議員ら約60人を対象に、ミニレクチャー「大学における男女共同参画推進の効果～すべての人が学びやすく働きやすい大学をめざして～」を行いました。



教育研究評議会でのミニレクチャーの様子

イベントを開催しました！

- 5月19・20日 リンゴとチューリップのフェスティバル参加
- 5月23日 アサーティブコミュニケーション入門第1回目
- 6月12日 第5回男女共同参画推進室セミナー
- 6月13日 アサーティブコミュニケーション入門第2回目
- 6月16日 親子体験学習・昆虫採集
- 7月4日 アサーティブコミュニケーション入門第3回目
- 7月12日 第2回国際学会なんてこわくない！一初・中級編一口頭発表と質疑応答を制する！
- 8月8日 内田麻理香氏講演会・女性研究者パネル展
- 9月13日 第10回女性研究者フォーラム（本町地区）
- 9月20日 第11回女性研究者フォーラム（弘前高等教育機関コンソーシアム）

学会託児支援やっています！

Information

男女共同参画推進室では、女性研究者を中心に、学会参加を促進するための取り組みの一環として、本学の教員が開催に携わる学会等における託児利用の支援を行っています。

本制度の趣旨は、子どもを連れての学会参加を容易にし、研究交流活動を活発にすることを目的として、学会開催時の託児費用を男女共同参画推進室が補助するものです。

詳しくは、「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」ウェブサイトをご覧ください。

お問い合わせ・申込み

男女共同参画推進室

Tel：0172-39-3888 E-Mail：equality@cc.hirosaki-u.ac.jp



OpenCampus

Report

進路選択応援！講演会開催！
「理系かも？」とおもったら
～理系の進路いろいろ～



講師の内田麻理香氏

8月8日、オープンキャンパスで来学した高校生への進路選択応援企画として、メディア等で活躍されているサイエンスコミュニケーター内田麻理香氏の講演会を開催しました。講演では、内田氏の経歴と10人の理系出身者の多様な活躍が紹介され、午前の部、午後の部合わせて121名の参加者が熱心に

耳を傾けました。内田氏からは「若いときは強気で！」という力強いエールが送られました。また、多くの高校生が、内田氏の「科目の得意不得意でなく、『好き』という気持ちを優先させれば、悔いの無い進路選択ができる」を印象的な言葉として挙げ、「文系だと思っていたけど、理系もよいと思った」という感想も聞かれました。

パネル展開催！
「国内外で活躍する弘前大学の女性研究者たち」

Researcher's Eye



パネル展の様子

本学の女性研究者11名の研究内容、ワーク・ライフ・バランスに関するエピソード、若者たちへのメッセージなどをパネルで紹介しました。

高校生たちは、パネルを熱心に見入り、女性研究者の研究内容を知るとともに、研究への姿勢や意欲を感じたようです。

トワイライトスティ事業って
ご存知ですか？

Information

弘前市が子育てと仕事の両立を応援しています！

弘前市では、夜間や休日の保育ニーズに対応するためにトワイライトスティ事業を実施しています。

トワイライトスティ事業とは、平日の夜間や休日に、保護者の方が仕事やその他の理由で不在となり家庭でお子さんを養育することが困難となった場合やその他緊急の場合にお子さんを保護し、生活指導や、食事の提供等を行う事業です。利用料金等詳しくは、情報ナビか弘前市のHPでご覧になれます。



お問い合わせ先

子育て支援課 児童育成係（電話 0172-35-1131）

新しい扉は必ずどこかで開いているから

このコーナーでは、弘前大学で活躍する女性研究者を紹介します。

アフリカが私を変えた

南 米の先史学に興味があった私は、埼玉大学から、筑波大学大学院歴史・人類学研究科へ進学しました。ところが、ほどなく指導教官の調査チームの一員として、アフリカのザンビアに行くことになったのです。現地での最初の夜は怖くて「もう帰りたい…」と思いましたが、3 か月たつてザンビアを離れる時は、別れがつらくなっていました。



いったん帰国したものの、2 か月後に同じ村へ行き、今度はひとりで一年間滞在。その後、半年日本に戻って、また一年間アフリカに行きました。当時は、日本よりアフリカにいる方が長かったと思います。

ザンビアは、焼畑農業や母系社会の仕組みなど、研究対象としても興味深いところですが、なんといつても「人」が素敵でした。特に、おじいさん、おばあさんが毅然としていながら穏やかで誇り高く、「歳をとるって、こんなにカッコいいんだ!」と、それまでの価値観が一変するほどでした。村の人と生活を共にして調査を重ねるうちに、どんどんアフリカに魅了されていき、2 回目のアフリカで調査を終えた頃には、このまま研究者の道を進もうと決めていました。

私自身も変わっていきました。もともと私は人見知り激しく、イヤなことであってもニコッリ笑っているようなタイプだったのですが、アフリカから帰ってくると、どんどん自分の考えを表明するわ、大声で「なにい?」などと言うわ、周りからは「ずいぶんワイルドになったね…」と言われたものです。私自身は、変わった自分の方が好きでしたし、ものすごく楽で自由になったと感じた覚えがあります。



水汲みや料理を手伝ってくれた妹分の少女



村の人々



シコクビエ酒を飲む

☞ の方の近所に引っ越しもしました。本当に「保育ママ」さんのおかげで研究を続けられたと思っています。職場でも、柔軟な考え方をする同僚たちが融通をつけてくれたので、支障なく仕事をすることができました。

「つがるネッサンス!地域でつなぐ女性人才」

△ 年度までの3年間、男女共同参画推進室で取り組んできた、女性研究者支援事業「つがるネッサンス!地域でつなぐ女性人才」のそもそもの考え方は、まさに、「保育ママ」さんのような、弘前にすでにたくさんある「財産」をもっと活かし、つなごうということなのです。弘前は、そういうことができる雰囲気のある街だと思います。

アフリカでも、とにかく人がすごくよく助けてくれます。困っている人がいるなあと思ったら、どこからともなく集まってきて、手を貸してくれますし、ひとつひとつの家族は独立しつつ、「扉」が文字通り低いので、「ちょっと助けて!」と扉越しにSOSを出すと、すぐに隣人が駆けつけてくれます。子どもも、家族以外の人も含めて、いろいろな人に抱っこされて大きくなるのです。

日本の社会では、助けてもらおうと、なにか負債感を持ってしまうのですが、もっと気楽に「助けて」と言い合い、つながっていきたくらいではないでしょうか。まずはいろいろ実践してみると雰囲気が変わり、雰囲気が変わると制度や慣習が使いやすく変化していくことがあると考えています。

「新しい扉」を探して

息 子が生まれてから、3 年間はアフリカに行けませんでした。小さい子どもをおいて調査になんて行けないと思ったのです。その時は、研究の「扉」が閉じちゃったなあという感じがしました。でも、息子が3 歳になって、家族と一緒にアフリカに行くようになると、現地での扱われ方、人との付き合い方が、ひとりで行った時と全く違って驚きました。新しい研究の境地に立つことができ、「ああ、こういうふうには別の扉がまた開くんだなあ」と思ったものです。

実は2003年にリウマチを発症して、ずっとアフリカ行きを見合わせてきましたが、この夏の終わりに、久しぶりにタンザニアに行くことになりました。一度は寝たきりになるかもしれないというぐらいの病状がひどく、今でも手指や足が少し不自由です。でも、目の前の扉が開ざされても、必ずどこかで別の扉が開いているものです。病気をする前には気づかなかったことが、アフリカの「新しい扉」の向こうに見つかるかもしれませんね。

大きかった「保育ママ」の存在

弘 前大学には、1991年に着任しました。その後、タンザニアにも調査に行くようになり、同じアフリカ研究者の現在の夫と知り合いました。帰国後結婚し、息子が生まれましたが、育児休業を取れず、私や夫の母が交代で来てくれました。夫も全力で育児や家事をこなしてくれましたが、長期出張で弘前にいないこともあり、「この先どうしよう」と途方に暮れていたなら、知り合いが「保育ママ」さんを紹介してくれたのです。

その方は本当に親身に子どもの面倒を見てくださいました。ご家族全員がとてもあたたかく、まるで親戚のようにおつきあいしていただきました。子どもが熱を出して、でも授業は休むわけにはいかない…という時、「心配しなくていいから、うちに連れてきなさい」と言ってもらってどれだけ助かったことか。

結局、その方には、息子が小学校を卒業するまでお世話になりました。急に仕事が入って遅くなった時には夕飯を食べさせてくれたり、私の出張に合わせてキャンプを企画してくれたり。その家には、他の三家族の子どもたちもお世話になっていて、うちの息子は、その子たちと兄弟のように育ったので、長男なのに、「次男な性格」をしています。今でも、何だかんだといつてはその家にみんなで集まって楽しんでます。

実は、他の大学に移る可能性もあったのですが、「この環境は手放せない!」と、迷わず弘前に残ることを選びました。より便利に、ということでも、

人文学部文化財論講座 教授
杉山 祐子
Yuko SUGIYAMA

趣味：研究
リフレッシュ法：
料理、お酒、映画、音楽、
ぼーっとすること
東京都新宿区出身



情報共有サーバシステムのお知らせ

<https://info.equ.hirosaki-u.ac.jp/>

弘前大学では、研究者をめぐる環境整備の一環として情報共有サーバシステムを10月1日から運用します。

- 欲しい情報が1通のメールにまとめられて送られてきます。
- 投稿された情報は年度ごとにまとめられて保存されます。
- 情報内容別に投稿された情報が表示されます。



I

I ログイン

総合情報センターに登録しているメールアドレスとパスワードを入力して、「ログイン」ボタンをクリックしてください。

II

II メニュー

- ① 情報を見る・申し込む
投稿された情報のタイトルが表示されます。
- ② 投稿する
周知したい情報が投稿できます。
- ③ MY投稿一覧
自分が投稿した情報が表示されます。
また、申込機能を付けた情報は、申込者の情報を入手できます。
- ④ MY申込一覧
自分が申込みをした情報が表示されます。
- ⑤ アカウント設定
自分の氏名・所属・連絡先を登録します。
- ⑥ メール受信設定
設定したカテゴリ(情報区分)の新着情報が1日1回メールで送信されます。

III

III チェックで絞り込み表示

チェックしたカテゴリの情報のみが表示されます。

- 「メール受信設定」で受信設定を行ったカテゴリ別に新着情報が1日1回メールで送信されます。
- メールで送信される情報は前日に投稿された情報です。
- 受信設定を行っていないカテゴリの情報はメールで送信されません。
- 前日に投稿されていない場合にはメールは送信されません。

第4回理工学部女子会

地球と人類のより良い共存を目指す 地球環境学科

地球全体を一連のシステムと捉えた教育研究



7月12日に理工学研究科で「女子学生座談会」が開催されました。各学科持ち回りで所属する女子学生から学科の魅力を聞き、その魅力を最大限生かしたHP作成や広報活動を行い、「理系女子」を増やすことを目的としています。今回は地球環境学科に所属する女子学生に集まってもらいました。

地球環境学科では地球に関することを幅広く学べます。宇宙物理学・重力波など大気圏外を対象とした外圏環境学分野、気象学・雪氷学など地球表面から大気圏までを対象とした大気水圏環境学分野、古環境・地球の内部構造など地殻とマントル部分を対象とした地圏環境学分野、地殻変動・災害対策・地震など自然災害を対象とした自然防災工学分野の4分野から研究分野を選択することができます。座談会に参加してもらった女子学生達は、幅広い分野が学べ、入学してからの進路の選択肢が多いのが魅力だったので進学を志望したそうです。

今回の座談会は学部2年生～4年生の女子学生が参加し、研究室の配属方法や講義の選択、過去問の信頼性など学生ならではの話題で盛り上がりました。所属している先輩方に研究室の雰囲気やゼミ内容を確認し、所属先を決めた方が良いでしょう。ある分野のゼミは英文の論文を読むことが多い。教員方と仲良くなるにはコツがある。縦の繋がりを作るために学科の飲み会には参加した方が良いでしょう。等々、学生ではなければ知らない裏話を聞くことができました。

某教員が参加者全員に学内の喫茶コーナー『絆』のケーキセットを奢ってくださり、楽しく美味しい時間を過ごしました。ケーキセットの効果か、座談会後は女子学生だけの「女子2次会」が行われていました。K先生、ありがとうございました！

(理工学研究科 藤崎 里美)

大学生生活

将来の夢

弘前大学理工学部
理工学部女子会
★ 気になる!! 理工学部女子会はつづくにアクセス ★
<http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/mirai/list.html>